

2028年4月に浜松市郊外から中心部への浜松キャンパス移転を計画する常葉大の木宮健二理事長が24日までに、静岡新聞社の取材に応じ、JR浜松駅南口への移転で「通学の利便性向上を、優秀な学生の確保につなげたい」とし、移転によるさらなる人材確保とキャンパス活性化に意欲を示した。移転後の現校地については、民間へ売却する方針も明らかにした。

常葉大浜松キャンパス 市中心部移転



建設工事が進む常葉大の新浜松キャンパス。7月中旬、浜松市中央区

同大がJR駅近接地に校舎を移転するのは2カ所目。2018年、JR草薙駅近くに富士キャンパスなどを移転再編して草薙キャンパス(静岡市駿河区)を開校した際、志願者が約1・9倍に増加したと説明。「学生の9割が県内出身で、自宅からの通学者が多い。浜松キャンパスも浜松駅の徒歩圏内に移転することで、浜松駅からバスで1時間弱かかっていた通学の便が大きく向上する」と強調した。

で、専門的な教育を提供できる」とした。

浜松市浜名区都田町の現浜松キャンパス校地については、「まだ機関決定はしていないが、売却する方向」とした。新東名高速道にも近いことから「物流企業からの引き合いが強い」と明かした上で、「老朽化していない校舎もある。相手次第だが、可能ならば建物の活用もお願いしたい」と述べた。

建設中の新校舎については、「工事は予定通りに進んでいる」とし、現状では開校の遅れはないとした。

(浜松総局・尾藤旭)

利便性向上で学生確保

新浜松キャンパスは浜松駅南の旧高砂小跡地に建設中。敷地面積約9800平方メートルで学生、教員合わせて約1800人が在籍する予定。

定。木宮理事長は「図書館や食堂は地域に開放し、住民も訪れやすい校舎をしたい」と地域連携への考えを語った。

近接することで教員の移動もスムーズになるとし、「講義のために行き来しやすくなる」と述べた。

既に浜松と草薙の「1学部2キャンパス制」を敷く経営学部に加え、保育士養成課程がある草薙の保育学部と、浜松の健康プロデュース学部で、「高度な技能を持つ各キャンパスの教員が行き交うこと

木宮理事長「地域連携へ校舎開放」